

平成28年度 魚沼市特別活動部会 活動報告

部長 佐藤 吉宏

1 研究主題

親和的な学級づくりへの挑戦

～温かい学級づくり支援事業（3年次）を通して～

2 研究概要

今年度3年次を迎えた「温かい学級づくり支援事業」では、学級の集団機能を高め、どの子にとっても居心地のよい環境をつくりつつ、「集団で学ぶ」の機能を高めることを通して、学力向上や不登校対策に取り組んできた。そのために児童会活動でも学校全体で温かい支持的風土を育成する活動に取り組んだ。当部会では、この事業の中核となる学級会活動や児童会活動について、Q-U調査等の実態分析に基づき課題を明確にして実践してきたそれぞれの取組のよさを共有し、実践力向上を図るために下記の研修を行った。

(1) 夏季研修会

日時 8月23日（火）14：00～

内容 ○実践レポートによる活動や手立て情報の共有（ファシリテーション）
○市教育委員会統括指導主事の講話

(2) 「温かい学級づくり発表会」への積極的参加

3 研究の実際

実践発表レポートの内容別に3グループに分かれ、全員で実践発表を行った。グループは「主に児童会での全校的な取組」を1つ、「主に学級における親和性を高める活動の取組」を2つに分けた。児童会グループでは、「子どもの考えを引き出す取組」「児童が共通理解できる場の工夫」「マンネリ化を防止しながら取り組むあいさつ運動」について意見交換を行った。その中で子どもの言葉を生かしたためあて・スローガンづくりや話し合い活動が大事であることを共有した。また、学級活動グループでは主体性を育成するために、リーダーとフォロワー双方の経験や係活動、振り返り活動の重要性に着目し、学級のことを自分事として考える話し合いの組織や児童個々への認め・励まし支援が大切であることが確認された。



講話では魚沼市教育委員会 伊佐貢一 統括指導主事より、「主体性の育成には教師のかかわりが重要であり、自発的・自主的・自治的な活動を為すことによって、子どもは当事者意識を学び育つこと」「学校行事、児童会活動、学級活動が連動した中（潜在的なカリキュラム）で、集団決定や自己決定の場をつくるのが大切であり、そのことで学習意欲や進路意識も育てていくこと」「集団を固定化させないようにリーダー性、フォロワー性を意識して活動を仕組むこと」「集団内で相互に認め合う場を大切にすること」等をご指導いただいた。

講話では魚沼市教育委員会 伊佐貢一 統括指導主事より、「主体性の育成には教師のかかわりが重要であり、自発的・自主的・自治的な活動を為すことによって、子どもは当事者意識を学び育つこと」「学校行事、児童会活動、学級活動が連動した中（潜在的なカリキュラム）で、集団決定や自己決定の場をつくるのが大切であり、そのことで学習意欲や進路意識も育てていくこと」「集団を固定化させないようにリーダー性、フォロワー性を意識して活動を仕組むこと」「集団内で相互に認め合う場を大切にすること」等をご指導いただいた。

4 成果と課題

(1) 学習の基盤となる学級集団の機能を高められたことにより、児童の意欲や構えが高まったことで一定の成果が上がってきた。特別活動でもマンネリ化を防ぐ工夫や児童の主体性の伸長を意図した取組が多く提案されていた。また、各中学校区の実践発表会でも児童のかかわり方に成長が見られた。話し合い活動には教師の意識や技量が大きく影響する。学級差を少なくするために学級活動研修は今後も必要である。

(2) 「間違いたくない、目立ちたくない、このままでよい」という児童生徒の意識を変容させるために、認められるうれしさや達成する喜びをさらに大きくできるよう、特別活動の有用性共有を各校の研修で一層推進していく。